

留学生便り～イーストベイ校～

私が履修している授業は、教科書が指定されているほか、講師が身近な話や実際の事例を用いてくださるので、留学生でも十分に理解できる内容でした。ただクォーター制における授業内容の進行は速く感じられ、もう少しじっくり学習したいと思っています。ほかには、選択する授業にもよるのですが、一般的にこちらの大学は日本の大学と比べて課題や出席を重視し、テストの点数の比重は低いという印象です。

授業やその復習、課題などの勉強をしていないときは、基本的に日本人以外と一緒に過ごしています。東・東南アジア出身の学生とは英語のレベルが同程度なので、ほぼ不自由なく会話をする事ができますが、西・南アジア、また特に欧米出身の留学生と

の会話にはいまだに苦戦しています。彼ら彼女らの英語のスピードがいくぶん速いほか、日本人、アジア人として接点の少ない文化や歴史、社会システムに関する話が始まると一苦労です。ただ、そうした各国の習慣や教育システムといった日本で滅多に聞くことのできない話は興味深く面白いです。各国の話を理解できた日、できなかった日、日本のことを満身に伝えられた日、そうでなかった日に一喜一憂しつつも、ほぼ毎日彼ら彼女らと晩ご飯を共にしながら語りあっています。食事時間に友人達とそれぞれの国のことについて聞き、話すことは、授業と同等、もしくはそれ以上に学ぶことが多いです。

2015年1月 上村飛翔

台湾料理講習会～肉まん作り～

2月9日（水）文化交流委員会主催で中央公民館実習室にて台湾料理講習会を実施。32名（内外国人11名、男性2名）の参加者があった。

講師は台湾出身、在日34年の宗さん。まずは生地作りから。生地の材料のこね方、2時間の発酵、具材の肉の味付けの仕方、野菜の切り方、混ぜ方、生地の皮に具材を包み込むまでを実演。



肉まん作り風景

参加者は6班に分かれ、生地を一枚ずつ丸く伸ばす人、肉に味付けする人、野菜を切る人に分かれて準備。その後全員で皮に具材を

包み込み、蒸し器へ。蒸し器をわかしている間、講師テーブルで全員分のコーンスープ作り。卵を入れるタイミングを教わった後、各テーブルに戻り、肉まんを蒸し上げた。

具を包み込む作業では苦戦していたが、出来ばえはともかく、12分蒸して出来上がると「おいしそう!」、「早く食べたい!」の声も。コーンスープと講師手作りのあんまんと共に美味しくいただいた。

男性2名の内一人は中華料理の現役コックさん、もう一人は料理教室に通う会員の方で、野菜の切り方やこね方も手際よく、力強い味方となった。実習中は終始にぎやかで、参加した中国、フィリピン、ミャンマーの人達との交流も楽しんだ。

広報委員 塚原

横須賀市避難訓練レポート

1月17日（土）18日（日）、横須賀市での「学校体育館で宿泊体験」に参加した。場所は、夏島小学校（京急本線追浜駅から徒歩5分）である。毎年、夏は船橋市、冬は横須賀市で行われる避難所宿泊体験は、今年は天候に恵まれ、また、災害ボランティアネットワークのボランティアの皆様の手際よい行事進行によって楽しく参加できた。

主な講座内容として

「夏島小学校における防災の取り組みについて」

横須賀市立夏島小学校校長 小川義和先生

この小学校は、海拔3.4メートル、高台まで500メートルという所にあり、避難に時間がかかるため保護者からの要望で避難階段を設置した。また、避難体制として学校運営、救護・衛生、避難所の三つに分け、避難所運営マニュアルを作成した。防災教育「お・か・し・も」（おさない・かけない・しゃべらない・もどらない）避難訓練を毎月行っているなどのお話をうかがった。毎年各小学校では、校長先生を中心に学校ごとの状況に合わせた災害への対応策がしっかり

取られている。子供たちの大切な命を守るためにやりすぎということはないと思う。

「震災時避難所での要援護者対応について」

横須賀市障害者施策検討連絡会 防災ワーキング 浅羽 昭子氏

身体的な障碍（視覚、聴覚など）で情報の受発信が容易ではないことがある。これは日本語が堪能でない外国人には、難しい日本語が理解しづらいのと同じである。また、精神的な障碍により、配給などの順番を待つことができない場合どのように対応するかなどは、文化や習慣の違いで並ぶことが日常に無いなど、日本人が当たり前と思っていることが外国人にとってはそうでない場合どのように伝え理解してもらうかなどの支援の仕方が、外国人サポーターの私たちにとっても、参考になる良いお話であった。また、参加者からの感想として、「こういった避難宿泊体験は大変良いと思う。もっと多くの人に体験してほしい」という意見があげられた。

災害時外国人サポーター 白川 恵